

食品安全委員会の6月の運営について

1. 食品安全委員会の開催

第434回 6月7日（木）

(1) 食品健康影響評価の結果に基づく施策の実施状況の調査結果について（平成23年9月末時点）

- ・事務局及び厚生労働省から報告。

(2) 遺伝子組換え食品等専門調査会における審議結果についての報告

- ・同専門調査会から報告された以下の案件について、国民からの意見・情報の募集に着手することを決定。

遺伝子組換え食品等 （1品目）	GLU-No. 5株を利用して生産されたL-グルタミン酸ナトリウム
--------------------	-----------------------------------

(3) 食品健康影響評価

- ・以下の案件について検討し、食品健康影響評価の結果をリスク管理機関に通知。

農薬及び添加物（1品目）	ピリメタニル
農薬（1品目）	フェンピラザミン
遺伝子組換え食品等 （1品目）	除草剤グルホシネート耐性及びチョウ目害虫抵抗性ワタGHB119系統（飼料）

(4) 食品安全委員会の5月の運営について

- ・事務局から報告。

第435回 6月14日（木）

(1) 食品健康影響評価の要請

- ・以下の案件についてリスク管理機関から説明。

遺伝子組換え食品等 （2品目）	pLPL株を利用して生産されたホスホリパーゼ、pPDN株を利用して生産されたホスホリパーゼ
--------------------	---

(2) 平成22年度「食品安全委員会が自ら行う食品健康影響評価の案件候補」に係るファクトシートの作成について(報告)

- ・事務局から6案件のファクトシートの作成についての報告があり、これまでに作成したファクトシートと同様に、委員会のホームページで公表することとし、今後、新たな科学的知見や情報があった場合には、随時、ファクトシートの内容を更新していくこととなった。

(3) 食品安全関係情報(5月19日～6月1日収集分)について

- ・事務局から報告。

第436回 6月21日(木)

(1) 各専門調査会における審議結果についての報告

- ・各専門調査会から報告された以下の案件について、国民からの意見・情報の募集に着手することを決定。

化学・汚染物質(清涼飲料水中の化学物質)(4品目)	ホウ素、アンチモン、セレン、マンガン
遺伝子組換え食品等(1品目)	低飽和脂肪酸・高オレイン酸及びグリホサート耐性ダイズMON 87705系統
肥料・飼料等(2品目)	タイロシン、リン酸タイロシンを有効成分とする豚の経口投与剤(動物用タイロシンプレミックス「A」2%、同10%、同20%)
肥料・飼料等/微生物・ウイルス合同専門調査会(薬剤耐性菌に関するワーキンググループ)	ツラスロマイシンを有効成分とする豚の注射剤(ドラクシン)の承認に係る薬剤耐性菌

(2) 食品健康影響評価

- ・以下の案件について検討し、食品健康影響評価の結果をリスク管理機関に通知。

農薬(4品目)	サフルフェナシル、シアゾファミド、スピネトラム、アミスルブロム
遺伝子組換え食品等(2品目)	チョウ目害虫抵抗性ワタCOT67B系統、チョウ目害虫抵抗性ワタCOT102系統

(3) 食品安全モニターからの報告(平成24年1月～3月分)について

- ・事務局から報告。

(4) 食の安全ダイヤルに寄せられた質問等(平成24年3月～5月分)について

- ・事務局から報告。

第437回 6月27日(木)

(1) 食品健康影響評価の要請

- ・以下の案件についてリスク管理機関から説明。

農薬(1品目)	テブフロキン
---------	--------

(2) 食品健康影響評価

- ・以下の案件について検討し、食品健康影響評価の結果をリスク管理機関に通知。

遺伝子組換え食品等(3品目)	チョウ目害虫抵抗性ワタC0T67B系統、チョウ目害虫抵抗性ワタC0T102系統、除草剤グリホサート及びアセト乳酸合成酵素阻害剤耐性ダイズDP-356043-5
----------------	---

(3) 企画等専門調査会における調査審議結果について

- ・担当委員の小泉委員長及び事務局から報告があり、「平成23年度食品安全委員会運営計画のフォローアップ」について了承され、「平成23年度食品安全委員会運営状況報告書」について決定された。

(4) 微生物・ウイルス関係ハザードに係るファクトシートの作成について(報告)

- ・事務局から1案件のファクトシートの作成についての報告があり、これまでに作成したファクトシートと同様に、委員会のホームページで公表することとし、今後、新たな科学的知見や情報があった場合には、随時、ファクトシートの内容を更新していくこととなった。

(5) 食品安全関係情報(6月2日～6月15日収集分)について

- ・事務局から報告。

(6) 平成16年度「自ら評価」案件の取扱いについて

- ・担当委員の熊谷委員から説明があり、平成16年度に「自ら評価」案件として採択された「食中毒原因微生物に関する食品健康影響評価」については、自ら評価案件として終了

することとなった。

- ・なお、今後、本件について、事務局において、食品健康影響評価を行うために必要な新たな科学的知見が得られたと考える場合には、企画等専門調査会に報告するなど必要な手続きを取ることとされた。

(7) 食品安全委員会委員としてのこの3年間を振り返って

- ・熊谷委員、長尾委員、野村委員、畑江委員、廣瀬委員、村田委員及び小泉委員長から、3年間の活動を振り返っての発言があった。

2. 専門調査会の運営

(1) 企画等専門調査会

第3回 6月21日(木)

- ・平成23年度食品安全委員会運営計画のフォローアップ及び平成23年度食品安全委員会運営状況報告書(案)について、調査審議し、一部修正の上、食品安全委員会に報告することとなった。
- ・平成24年度食品安全委員会が自ら行う食品健康影響評価の案件選定の進め方について、調査審議し、平成24年度の「自ら評価」案件選定について、平成24年度「自ら評価」案件の決定までのフローのとおり、審議の中で出された意見(消費者庁が保有している情報を活用すること等)を踏まえ、事務局で手続を進めていくこととなった。
- ・平成24年度食品安全委員会緊急時対応訓練骨子について、事務局から、平成24年度食品安全委員会緊急時対応訓練骨子に従い、本年度の緊急時対応訓練を実施する旨の報告があった。
- ・食品安全基本法第21条第1項に規定する基本的事項について、事務局から、改定の経緯、内容等について報告があった。

(2) 添加物専門調査会

第107回 6月26日(火)

- ・「ひまわりレシチン」について調査審議し、ひまわりレシチンが食品常在成分等であることを示す資料又は今回提出されていない毒性試験成績に関する資料を求め、それらの資料が得られた段階で再度審議することとなった。
- ・「アドバンテーム」について調査審議し、継続審議となった。
- ・「亜塩素酸水」について調査審議し、評価書(案)を一部修正の上、食品安全委員会に報告することとなった。

(3) 農薬専門調査会

第83回 幹事会 6月1日(金)

- ・「ジカンバ」について調査審議し、評価第三部会で再度調査審議することとなった。
- ・「フルオピラム」について調査審議し、評価書(案)を一部修正し次回幹事会で再確認することとなった。

- ・「フルミオキサジン」について調査審議し、評価第三部会で再度調査審議することとなった。
- ・「アミスルブロム」について調査審議し、評価書（案）を一部修正の上、食品安全委員会に報告することとなった。
- ・「エポキシコナゾール」について検討の結果、評価第一部会において調査審議することとなった。
- ・平成23年度食品安全確保総合調査（海外のリスク評価機関におけるガイドライン等に関する調査）について、調査事業者から報告があった。

第17回 評価第一部会 6月8日(金)※非公開

- ・「チフルザミド」について調査審議し、評価書（案）を一部修正の上、農薬専門調査会幹事会に報告することとなった。
- ・「エポキシコナゾール」について調査審議し、継続審議となった。

第18回 評価第四部会 6月20日(水)※非公開

- ・「シプロジニル」及び「プロパルギット」について調査審議し、評価書（案）を一部修正の上、農薬専門調査会幹事会に報告することとなった。

(4) 動物用医薬品専門調査会

第141回 6月19日(火)※非公開

- ・「ジルパテロール」について調査審議し、評価書（案）を一部修正の上、食品安全委員会に報告することとなった。

(5) 器具・容器包装専門調査会

第18回 6月8日(金)

- ・「フタル酸ビス（2-エチルヘキシル）（DEHP）」について調査審議し、継続審議となった。

(6) 微生物・ウイルス専門調査会

第31回 6月4日(月)

- ・本年3月28日に開催された食品安全委員会セミナー「リステリア症ー北米、欧州、豪州の経験に学ぶ」について、豊福専門委員から概要の説明があった。
- ・前回の専門調査会で出された質問事項に係る厚生労働省からの回答について、事務局から説明があった。
- ・「リステリア・モノサイトゲネスの食品健康影響評価を行うに当たっての基本的考え方（たたき台）」に基づき、審議の方向性等について審議した。
- ・評価を行うに当たり必要なデータについて審議され、現在のリステリア感染症の発生状況を確認するために、厚生労働省院内感染対策サーベイランス（JANIS）事業のデータ等について、事務局から厚生労働省に確認を行うこととなった。
- ・現状で入手可能なデータの範囲でどのような評価ができるのかを検討するため、次回ま

で事務局が専門委員と相談して情報の整理を行うこととなった。

- ・平成16年度の「自ら評価」案件（リスクプロファイルが作成された8案件）について、終了に向けた手続きを進めることとなった。

（7）プリオン専門調査会

第72回 6月26日（火）

- ・vCJD について、中村専門委員、佐多専門委員から説明があり、vCJD の発生数はBSE の発生頭数との関連がみられ、ほぼ終息に向かいつつあること及びBSE プリオンに対する感受性は、ウシに比べてヒトの方が低いと考えられることが確認された。
- ・非定型BSE について、小野寺専門委員から説明があり、ほとんどが8歳以上と高齢で発生していること、及び定型BSE と異なり、おそらく孤発性と考えられることを踏まえた評価を行うことが可能と考えられることが確認された。
- ・米国・カナダの発生状況等について筒井専門委員から、また、各国の飼料規制等の状況について山本専門委員から、それぞれ説明があった。米国・カナダについて、実際の発生状況や飼料規制・サーベイランス等の状況から、飼料規制の一定の有効性は確認されつつあると考えられることが確認された。
- ・評価結果のとりまとめ方について審議し、諮問事項のうち、国内の検査対象月齢及びSRM の範囲並びに米国、カナダ、フランス、オランダからの輸入対象月齢及びSRM の範囲に関し、規制閾値を30 か月齢とした場合のリスクの比較に関して意見を求められている部分について、各国におけるBSE の発生状況、飼料規制等の状況、感染実験に関する知見等に基づき、評価結果をとりまとめることとされ、次回に向けて、起草委員の協力を得ながら、評価に関するたたき台を用意し、議論を進めていくこととなった。

（8）遺伝子組換え食品等専門調査会

第105回 6月27日（水）

- ・「ステアリドン酸産生ダイズMON87769 系統（食品・飼料）」について調査審議し、継続審議となった。
- ・「pLPL 株を利用して生産されたホスホリパーゼ」及び「pPDN 株を利用して生産されたホスホリパーゼ」について調査審議し、評価書（案）を食品安全委員会へ報告することとなった。
- ・「イミダゾリノン系除草剤耐性ダイズBPS-CV127-9（食品・飼料）」について調査審議し、評価書（案）を一部修正の上、食品安全委員会へ報告することとなった。